

東京地方壮年連合通信 vol.83

TOKYO SOUNEN RENGOU TSUUSHIN 2019年9月14日

「何が見えるか」

元川信治（もとかわ しんじ） 千葉バプテスト教会牧師

主の御名を賛美します。

西南学院神学部(以下、神学部)での学びを経て、今年度4月から牧師として歩み始めました。神学部在学時を振り返るとき、諸教会の皆さんに祈られ、支えられて来たことを感じます。特に、研修教会での信仰生活、神学校を覚えての礼拝や夏期研修という形で与えられた奉仕と出会いは、貴重な経験となりました。

私は、神学部が転機を迎えつつあるとの印象を持っています。定年を迎えようとしている教員の方々がおられること、神学コースに在籍している学生数が減少傾向にあることなどが直面している事柄として挙げられます。また、少し視野を転じて大学という教育機関の中にある神学部として受けているチャレンジもあると感じています。いわゆる世俗化、そして、国際化の大きなうねりの中であって、「神学すること」の意義が改めて問われているのでしょうか。たとえば、多様な文化的・宗教的背景を持つ留学生を迎えている中で、ミッションスクールの在り方は従前のようにはいかないかもしれません。

福岡西部教会で研修させていただいていた際に、ある冊子を手にししました。それは、『神学部を考える—千隈校地売却問題について—』という題で、1996年度に神学部修養会委員会がまとめたものでした。そこには、バプテストの神学教育の道のりが決して平坦なものではなく、多くの課題や困難の中にあつたことが記されていました。そして、危機に直面するたびに、これまでの歩みを評価、批判して、その先の歩みを探り求めて来たことを知りました。たとえば、神学校の指導性や神学的姿勢における歴史性・隣人性の欠如を批判する議論が起こる中、1970年3月に開催された神学校問題協議会は、神学教育の理念を以下の言葉で総括しています。『「神学校は神学する伝道者を養成する」ここで神学するとは、単なる知識を集積することではなく、時代の中で福音を聞きわけ、状況をきり開く主体を確立することである。このようにして教会に仕え、主イエス・キリストの証人性を貫徹するのが伝道者である。』

神学部のこれからを考えようとするとき、そこには、諸教会が抱えている課題と極めて類似している点が数多くあるように思います。そうであるなら、神学部と諸教会は、私たちの主イエス・キリストの福音に共にあずかり、分かち合っていく同胞として、なお成し得ることがあるのではないのでしょうか。

東京地方壮年連合「オープンフォーラム」に出席して

松田俊介（まつだ しゅんすけ） 目白ヶ丘教会

2019/7/13 13:30～16:00 場所：大久保教会、講師：山田誠一、元川信二

全国壮年会連合が1982年から取り組んで来て、2001年からはその事務作業まで委託されて取り組んでいる「神学生サポート」を近々の実情を知って、再考するためのオープンフォーラムの第1回会合が7月13日に行われた。大変重要な事実を説明いただき、大変有益なフォーラムでしたが、PR不足に加えて、連合内の行事、諸教会行事と重なったためか人数はそう多くなかったことが残念に思えました。

山田会長から、

「西南の受給神学生25名をサポートする計画でいるが、実際は11名である。」

「2025年で九州、東京の地方連合立の神学校への連盟支援金がなくなるので、その時の神学校、神学生へのサポートを考えないといけない。」

元川牧師から

「奨学金に支えられて牧師になれた。」との感謝

「西南の教授陣は7名で激務になっている。神学生は14名。」

「西南学院・宗教部はキリスト者活動支援課に名称変更された。宗教という包括的な名称でなく、キリスト教と明示された。」

「西南で学問的な神学を学んだが、現場に出てみると、「信徒との協働性」についての学びが足らなかったなという思いがある。」

2月16日の東京地方壮年連合の場で、当時の吉高常務理事から、「今一番心にかかっているのは、教役者とその養成である」との挨拶があったが、このフォーラムで、「無牧師の教会・伝道所が35もある一方、40人くらいの招聘待ちの卒業生がいる」との報告があった。

適切な待機者がいないというのではなく、教会が専任牧師の招聘に躊躇しているのだと思われるとのことでした。

「教役者としての献身の勧め」も大切だが、「教会が伝道者養成のスピリットを強く持って欲しい」という山田会長の話が切実に聞こえた。

河野会長代行から、「3神学校の連携」、「複数の教会に奉仕する牧師 あ

るいは 他の職業につきつつ牧師として奉仕する」などをテーマとして今後のフォーラムを行いたい旨の呼びかけがあった。

参加された方の感想

「13日(土)のフォーラムについては、自宅に戻ってから「東京地方壮年連合通信 82号」を読ませて頂きました。私の質問の恥ずかしさを痛感した次第です。ある兄弟の発言内容について、他の方々の意見も聞きたかったです。重要な課題を扱っていますので、第2、3回目と、本音の話し合いの時間が持てるように望んでいます。そのためには、問題提起は短い時間で的を得た内容で、話し合いの時間を多く取られることも必要ではないでしょうか。」

公 示 東京地方壮年連合会長選挙

この度、2019年度総会において(2019年11月23日(土・祝)、場所・常盤台教会にて)、選挙を行います。

以下により、立候補を受付けます。

1. 立候補対象 : 連合規約第7条による。
任期は2020年度から1年(河野会長代務者が一年限りのため)
2. 立候補締切 : 2019年11月11日必着(郵送、メール何れでも可)
3. 立候補届出先
郵 送 : 〒194-0003 町田市小川 1222-1-1301
メールアドレス : 410AB301@gmail.com

久場俊男(東京地方壮年連合 選挙管理委員)

4. 立候補届出様式 : 特にありません。 以 上

— 壮年の皆さんからの立候補をお待ちしています —

上記の公示を元にぜひ立候補してください。東京地方壮年連合は、会員相互の啓発を計り、各教会を知り、交流親睦を深めるとともに伝道活動を積極的に協力し合うことを目的としています。私たちは、役員間で各自の意見を出し合って、良いものを作るために努力してきました。喜びを共に分かち合いたいと思います。

◇ 2019年度東京地方壮年連合定期総会のご案内◇

日 時：2019年11月23日（土・祝） 11:00～12:30？

会 場：常盤台教会

議 案：①2018年度活動報告、決算報告

②2019年度活動説明、会計報告(決算見込み)

③2020年度活動計画、予算

※近々、総会案内を各教会に郵送します。多くの参加を期待しています。

◇ 2019年度神学校献金(目標500万円)のお願い◇

日頃の神学生支援に対するご理解に感謝申し上げます。今年度も昨年度に続き、500万円の目標に向かっての皆様からの祈りとサポートをお願いいたします。

* 2019年度 第三回オープンフォーラム *

テーマ：『将来の牧師像～フルタイム、兼牧、兼職？』

講 師：篠原健治（しのはら けんじ）福岡国際キリスト教会牧師

主 題：「パウロのように～兼職は献職～」

日 時：2020年2月15日（土） 13:30～16:00

会費はありません。席上献金もありません。

老若男女問わず、お誘い合わせの上、ご参加ください！

会 場：大久保バプテスト教会 東京都新宿区新宿7-26-22

最寄り駅：大江戸線・副都心線 東新宿駅

A2出口から徒歩3分

問い合わせ：03-3207-0307 河野（大久保バプテスト教会）まで

発行人：東京地方壮年連合会長代務者 河野信一郎

編集人：佐藤洋二